

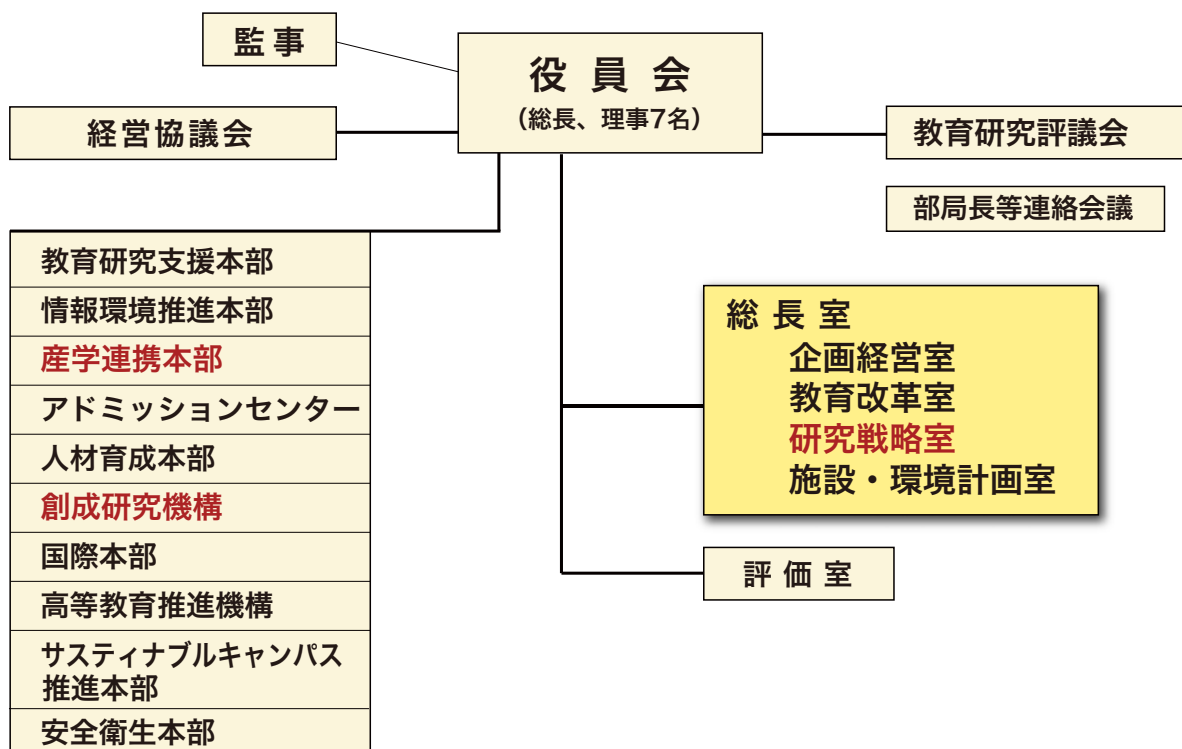
北海道大学における研究マネジメント



Dr. William S. Clark
Deputy President at the Foundation
of Sapporo Agricultural College

北海道大学 理事・副学長 **上田 一郎**

研究マネジメントに関する組織



研究マネジメントに関する組織

(年5回程度会議開催)

研究戦略室(総長室)

以下の事項についての企画・立案を行う

- ・研究に係る将来構想
- ・研究支援体制の整備
- ・産学官連携の推進
- ・地域との連携
- ・中期計画及び年度計画(研究に関する部分)
大学としての重点分野の洗い出し 等
- ・その他研究に係る重要事項

幹事会

隔週開催、コアメンバー※により機動的に対応

- ※
- 研究担当理事
 - 役員補佐(教授) 3名
 - 創成研究機構 副機構長
 - 研究推進部長、研究企画・推進課長、産学連携課長
 - 研究企画・推進課 外部資金戦略室長

北大を特徴づける研究分野・研究テーマ

H22年度計画

本学の研究戦略に沿って、より重点的、かつ戦略的に取り組むべき研究分野又は研究テーマを設定し、その研究を推進する

世界レベルで見て北大に優位性のある研究分野について部局に照会
(エビデンスの添付を義務づける)

利益相反のない理事全員で審査

研究戦略室でとりまとめ

教育研究評議会で報告

- ・新しい組織を検討していくための参考資料
- ・概算要求、補正予算対応の際の参考資料(グリーン、ライフイノベーション等)
- ・国民との科学・技術対話 etc. 公開發表資料

今後、定期的に更新予定



研究戦略室による北大を代表する研究の評価

以下のプロジェクト等の応募状況や業績の分析

総長事業推進経費による公募型プロジェクト研究応募

論文奨励賞応募

創成研究機構の特定研究部門応募

大型研究プロジェクト採択者

論文業績の分析



大型プロジェクトのマネジメント 1

大型競争的資金検討会

(総長、理事、COE拠点リーダー経験者等で構成)

大型競争的資金※ 申請前に学内で事前ヒアリング

※ GCOE、最先端・次世代研究開発支援プログラム 等

大型プロジェクトのマネジメント 2

大型研究プロジェクト実施に際しての組織的留意事項 十箇条

企画立案

- 1 **学内調整**
プロジェクト申請の企画段階において、議論が十分に行われているか。
- 2 **学外調整**
地元など学外関係機関との意志疎通が十分に行われているか。

人事

- 3 **民間からの人材登用**
人材の登用にあたって、該当する職種への適性が十分に考慮されているか。
採用後に円滑に業務を実施できる体制になっているか。
- 4 **優秀な人材の確保**
優秀な人材（特に、研究者）は他の組織へ異動し、学内に成果等が残らない場合がある。優秀な人材を適切に処遇しているか。

大型プロジェクトのマネジメント 2

大型研究プロジェクト実施に際しての組織的留意事項 十箇条

事業運営

- 5 **「トップダウン」と「ボトムアップ」の調整のバランス**
独断的なトップダウンは、第三者の無関心を招く、あるいは、第三者に疑問やわだかまりを生じさせる場合がある。内外の情勢と現場の状況を踏まえたトップダウンが行われているか。
- 6 **業務把握**
意志決定システムと指揮命令系統について、責任あるポストにある者が十分に情報を把握できる体制になっているか、迅速に指示が出せる体制になっているか。URAが十分に職務を果たしているか。
外部評価体制が必要か否か。
- 7 **組織改革成果の学内展開**
事業を通じて得られた組織改革の経験を学内展開するに際し、円滑に進められる体制になっているか。
- 8 **事業引継ぎの円滑化**
プロジェクト実施期間中に人材の交替があった場合、その後の事業遂行に支障のない体制になっているか。

大型プロジェクトのマネジメント 2

大型研究プロジェクト実施に際しての組織的留意事項 十箇条

研究の進行管理

9 事業化

研究が計画どおり事業に向かって進行していることを確認できる体制になっているか。

10 大学と企業の関係

共同研究が、大学の研究者と民間企業の研究者間の関係に止まらず、組織的に広がり発展するよう十分に配慮されているか。

大型プロジェクトのマネジメント 3

大型研究プロジェクトの事例

文科省 先端融合領域イノベーション創出拠点の形成

北海道大学

未来創薬・医療イノベーション拠点形成」事業 (H18~27年度)

○事業概要：

次世代の創薬と先端医療を出口とし、実用的新薬・疾患診断治療技術開発を加速する実践的研究と人材育成のための拠点を形成する。

○実施体制の整備：

平成21年10月に「未来創薬・医療イノベーション推進室」を設置。

4つのハブ、5つの協働企業との連携を図り、さらに融合促進を図るための研究支援を行うこととした。

文科省 橋渡し研究 (TR) 支援推進プログラム

オール北海道先進医学・医療拠点形成 (H19~23年度)

○事業概要：

札幌医大、旭川医大、北大の3大学が連携し、北海道における、基礎医科学から医療への「橋渡し研究」の基盤整備と先端医科学研究の医療としての定着を目指す。

○実施体制の整備：

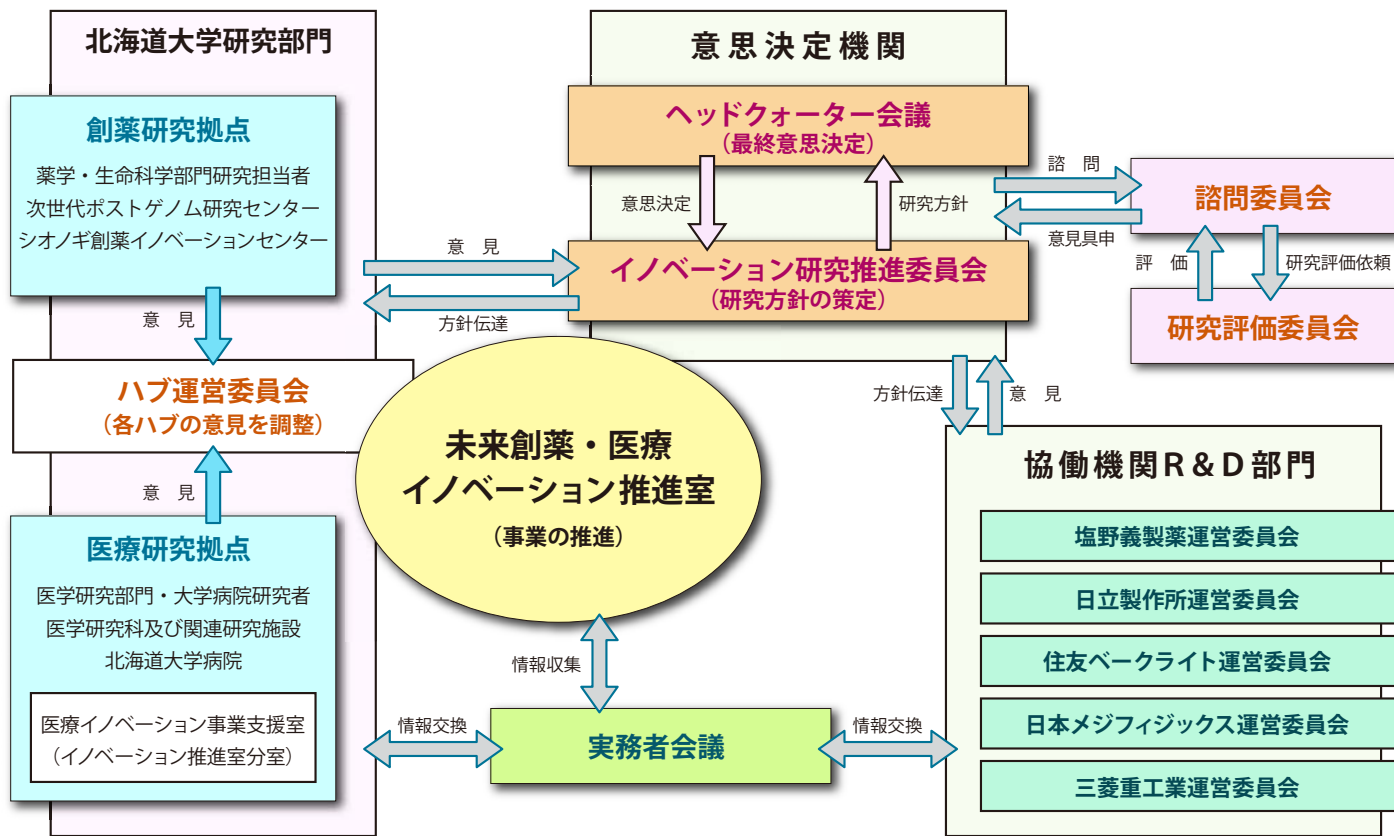
北大総長を機構長とし、3大学の協働により事業を実施。

実施主体として「北海道臨床開発機構 (HTR)」を設置

(平成23年度からは、同機構を発展させた「北海道大学探索医療教育研究センター」として改組)

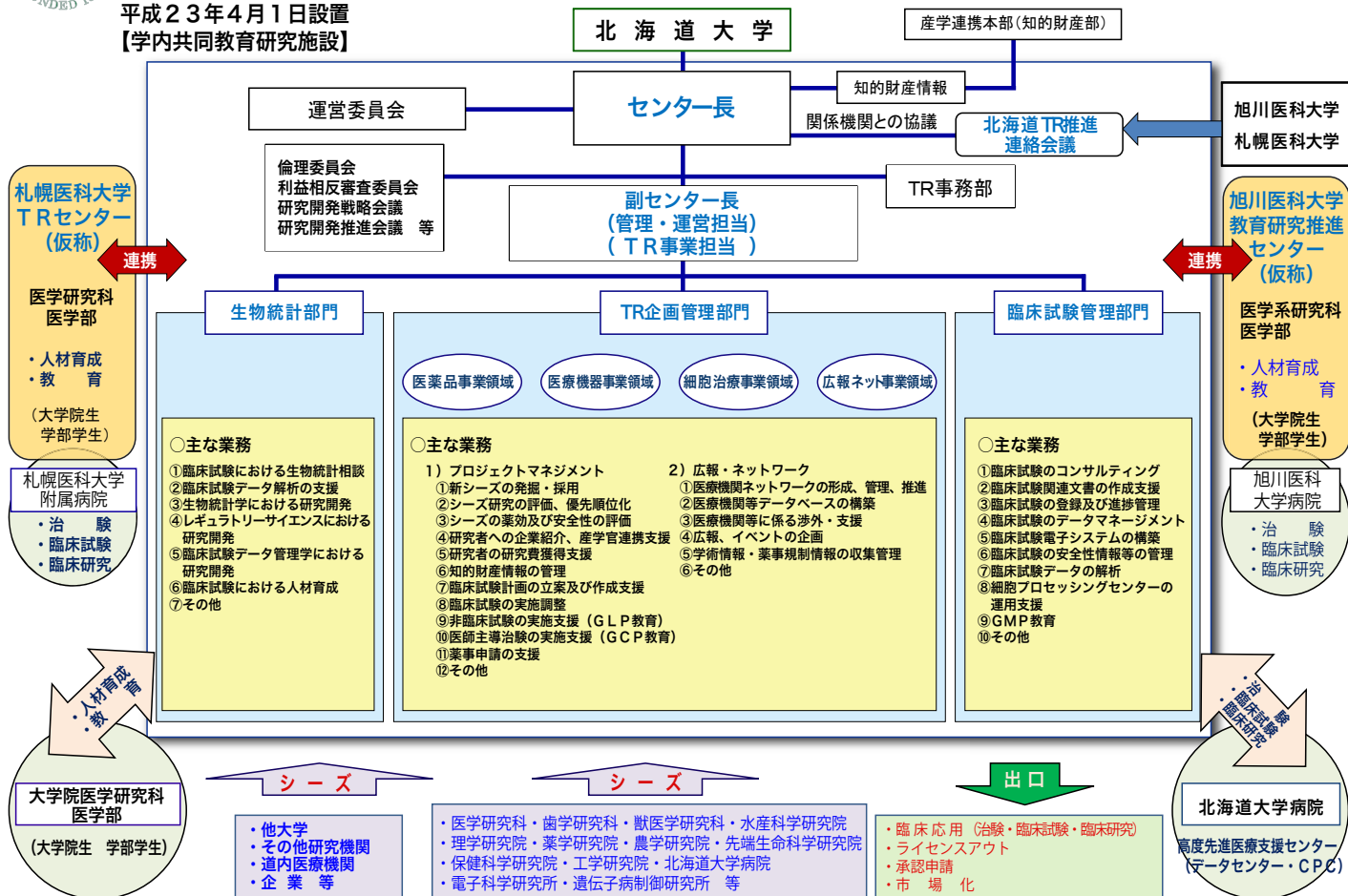


北海道大学 「未来創薬・医療イノベーション拠点形成」実施体制



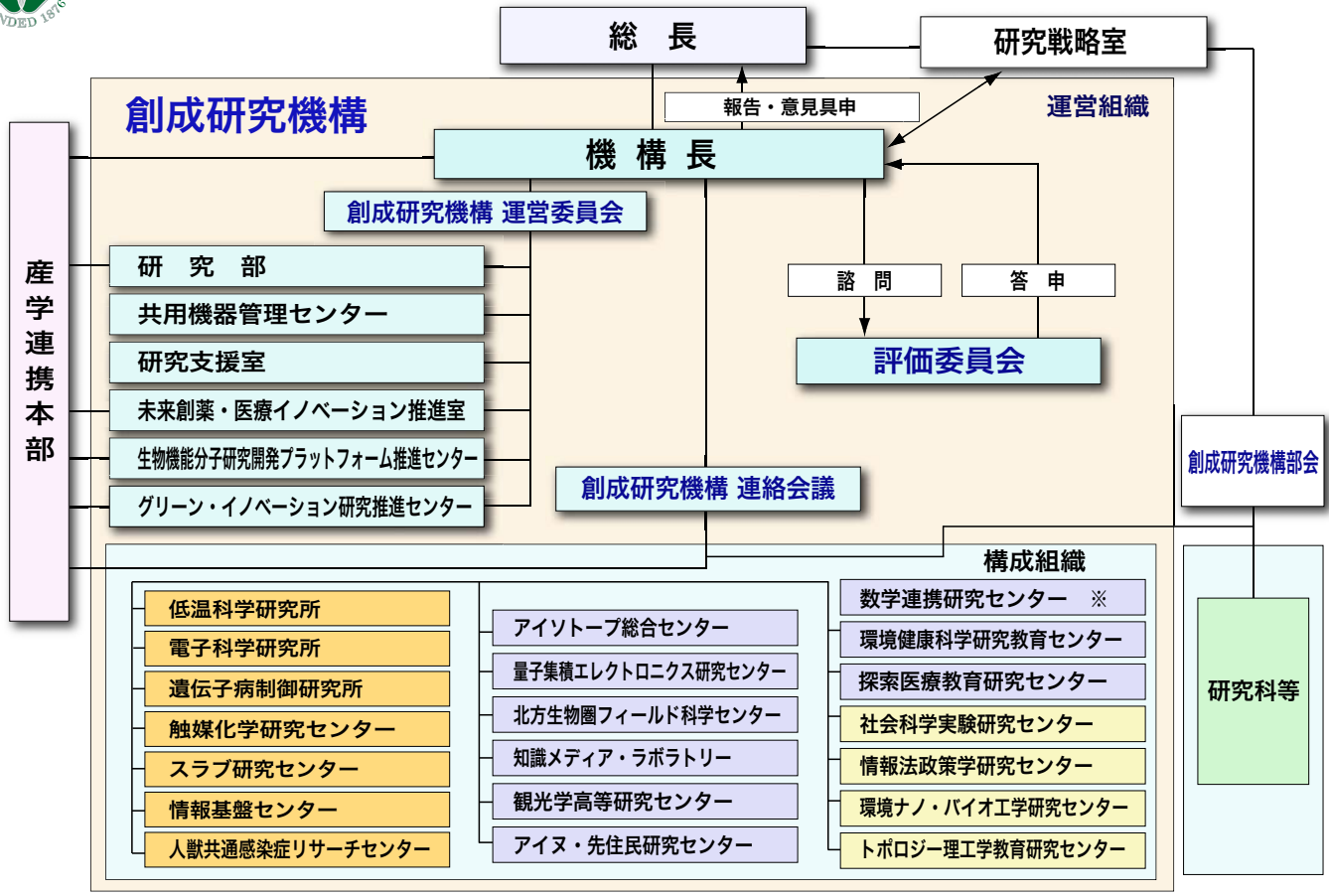
北海道大学探索医療教育研究センター 機能概念図

平成23年4月1日設置
【学内共同教育研究施設】





創成研究機構 組織図



■ : 共同利用・共同研究拠点に認定されている構成組織 □ : 設置期限がない構成組織 □ : 設置期限がある構成組織
 ※ 数学連携研究センターは設置期限がある構成組織に準じて取り扱う



創成研究機構評価委員会

(平成24年度に中間評価、26年度に期間評価を行う)

幹事会

(学外の委員長1名、各分科会から選出された6名の委員で構成)

理系分科会

(学内4名、学外4名の委員で構成)

◆評価対象組織

- ◎低温科学研究所
- ◎電子科学研究所
- ◎触媒化学研究センター
- ◎情報基盤センター
- 量子集積エレクトロニクス研究センター
- 北方生物圏フィールド科学センター
- 知識メディア・ラボラトリー

医系分科会

(学内4名、学外4名の委員で構成)

◆評価対象組織

- ◎遺伝子病制御研究所
- ◎人獣共通感染症リサーチセンター
- アイソトープ総合センター
- 環境健康科学研究教育センター
- 探索医療教育研究センター

文系分科会

(学内3名、学外3名の委員で構成)

◆評価対象組織

- ◎スラブ研究センター
- 観光学高等研究センター
- アイヌ・先住民研究センター

※上記評価対象組織のうち、◎は共同利用・共同研究拠点に認定されている組織

※設置期限がある構成組織については、下記年度に個別に評価を行う。

(なお、数学連携研究センター設置期限がある構成組織に準じて取り扱う。)

- ・平成23年度：社会科学実験研究センター
- ・平成24年度：情報法政策学研究センター、環境ナノ・バイオ工学研究センター、数学連携研究センター
- ・平成25年度：トポロジー理工学教育研究センター



総長室事業推進経費による研究支援

公募型プロジェクト研究等支援経費

初期段階の萌芽的研究、新しい研究分野の創出を目指す挑戦的な取組及び研究成果を国際研究集会等において積極的に発表することを支援し、北海道大学として特色のある研究の創出や人材の育成及び国際研究集会等における「本学の存在感」を高めることを目的とする

大型融合プロジェクト研究支援

本学研究者をリーダーとして、大型融合プロジェクト研究を立ち上げ、大型の競争的資金（単年度1億円以上）への応募を行うものを対象として支援

国際研究集会等開催支援

本学研究者を中心とする国際研究集会を北海道で開催するために要する経費（旅費等）を支援

国際研究集会等出席支援

国際的な場で「本学の存在感」を高める取組みとして、国際研究集会等において招待講演、基調講演等を行う際の旅費を支援

若手研究者自立支援

若手研究者が自らの発想を豊かにし、将来の科学技術を担うための新しい経験、研究分野の開拓等、幅広く見識を重ねることを対象として支援



国際評価

IAU（国際大学協会）との協働による大学国際活動外部評価

H21.10

IAUに国際活動外部評価を委託（IAUにとって初の試み）

H21.12

IAUから提示された自己点検評価項目に基づいて自己評価書（英文）を作成

H22.1

IAU評価委員等による北大 現地調査
（12回に及ぶ公開討論：役員、部局長、幹部職員、日本人学生、留学生等）

H22.3

最終報告書

IAU – HU Collaborative Review of Hokkaido University's Internationalization Strategy Final Report

今後、評価結果を活用し、国際化の推進を検討

国際評価

H223

最終報告書

IAU – HU Collaborative Review of Hokkaido University's
Internationalization Strategy Final Report

- 1 明確な国際化の方針づくりについて
- 2 国際社会における知名度 (visibility) の向上について
- 3 **研究の国際化について**
- 4 教育カリキュラムの改善について
- 5 日本人学生の海外への送り出しについて
- 6 留学生の獲得について
- 7 国際化に関わるガバナンスについて
- 8 学部レベルにおける英語コースの仕組みについて

インセンティブ

優秀な研究論文に対して、
総長が表彰する

【抜 粋】

- 国際社会において、北大の研究の知名度を向上させるため、集中的な取組みが重要
(例)
 - ・年間の論文発表件数の最低絶対数を定め、最低50%以上を英文で発表
 - ・国際会議での研究結果の発表を支援するとともに、各分野で国際的に著名な海外の研究者との共著を支援
 - ・ (以下略)
- 外国語の教員・スタッフ数を全体の10%以上とするよう検討